

提^{てい}言^{げん}構^{こう}想^{そう}メモの要^{よう}約^{やく}版^{ばん}

せいかつこうじょうぶかい

生活向上部会①

ぼご けいしょうご ぼぶんか きょういく きかい ほしょう こ
母語(継承語)・母文化教育の機会を保障し、子どもたちの
いくせい とりくみ そくしん
アイデンティティを育成するための取組の促進

○ 内容

こ ぼご ぼぶんか じぶん ことば ぶんか
子どもが母語や母文化(自分のルーツの言葉や文化)を
しょうちゅうがっこう まな けん とりくみ すす
小中学校で学べるように、県が取組を進める。

れい (例)

- けん つく しどう てび ないよう ふ
・ 県が作る「指導の手引き」の内容を増やす、
- せんせい しょくいんむ けんしゅう ないよう ふく
・ 先生や職員向けの研修の内容に含める

生活向上部会①

母語(継承語)・母文化教育の機会を保障し、子どもたちのアイデンティティを育成するための取組の促進

○ ^{りゆう}理由

- ・ ^{がいこく}外国につながる^こ子どもが^ふ増えている。

→ ^こ子どもがアイデンティティや^{じぶん}自分を^{たいせつ}大切に^{おも}思う^{きも}気持ちを
^{そだ}育てるために^{ひつよう}必要になる。

せいかつこうじょうぶかい
生活向上部会②

たぶんかきょうせいしゃかい み す けんりつこうこう
多文化共生社会を見据えた 県立高校における

いぶんかきょういく ぼご けいしょうご きょういく すいしん
「異文化教育」と「母語(継承語)教育」の推進

○ ^{ないよう}内容

1 ^{けんりつこうこう}県立高校で^{いぶんか}異文化を^{まな}学ぶ「^{いぶんかきょういく}異文化教育」の^{こうぎ}講座を^{つく}作る。

2 ^{けんりつこうこう}県立高校で^{ぼご}母語(継承語)を^{まな}学べるようにする。

※ ^{いちぶ}まず、一部の^{がっこう}学校で^{ため}試しに^{おこな}行う。

生活向上部会②

多文化共生社会を見据えた県立高校における「異文化教育」と「母語(継承語)教育」の推進

○ 理由^{りゆう}

1 「多文化共生社会^{たぶんかきょうせいしゃかい}」を進める^{すす}ためには、

外国人^{がいこくじん}の生徒^{せいと}も日本人^{にほんじん}の生徒^{せいと}も、違い^{ちが}を認^{みと}めて生^いきる力^{ちから}を

身^みにつける^{ひつよう}ことが必要^{ひつよう}。

2 アイデンティティ^{かくりつ}を確立^{かくりつ}したり、将来^{しょうらい}の目標^{もくひょう}となる人^{ひと}に出会^でえる。

教^{おし}える人^{ひと}も活^{かつ}躍^{やく}する場^ばが増^ふえる。

せいかつこうじょうぶかい

生活向上部会一③

がいこく せいと しんろほしょう む
外国につながる生徒の進路保障に向けた

こうりつこうこう ざいけんがいこくじん どう とくべつ ぼしゅうわく かくだい しえん そくしん
公立高校の在県外国人等特別募集枠の拡大や支援の促進

○ ないよう 内容

- 1 がいこく せいと う しけん ざいけんわく
外国につながる生徒が受けやすい試験(「在県枠」)を
がっこう う にんずう ふ
する学校や、受けられる人数を増やす。
- 2 しんろほしょう む とりくみ すす
進路保障に向けた取組を進める。

生活向上部会③

外国につながる生徒の進路保障に向けた公立高校の在県外国人等特別募集枠の拡大や支援の促進

○ 理由

- ・ 外国につながる子どもが増えている。
- ・ それに合わせて、「在県枠」の人数も増やしたい。
- ・ 日本人と同じように、進路を選ぶための支援が必要。

せいかつこうじょうぶかい

生活向上部会一④

がいこくうんてん めんきょ きりかえてつづき えんかつ か む とりくみ
外国運転免許切替手続における円滑化に向けた取組

○ ^{ないよう}内容

- 1 ^{しよるい しんさ}書類審査や^{ひっき しけん}筆記試験の^{よ やく}予約の方法を見直して、
^{よ やく と}予約を取りやすくする。
- 2 ^{てつづき き かん みじか}手続期間を短くしたり、^{てつづき えんかつ}手続を円滑にする。

○ 理由

- ・ 外国籍県民が増えると、外国運転免許の切替をする人が増える。
- ・ 手続のための予約が取りにくい。
- ・ 手続がすべて終わるまでにかかる期間が長い。
(その間、車を運転することができない)

せいかつこうじょうぶかい
生活向上部会一⑤

がいこくせきけんみん あんしん ろうご ささ かんきょうせいび
外国籍県民の「安心できる老後」を支える環境整備

○ ^{ないよう}内容

1 ^{こうれいしゃ む}高齢者向けに、^{かいご}介護などの^{せいど}制度を^{たげんご}多言語で^{せつめい}説明する
ガイドを^{つく}作る。

2 ^{じちたい}自治体や^{かいごしせつ}介護施設の^{しょくいん む}職員向けに、ガイドを^{つか}使った
セミナーを^{じっし}実施する。

り ゆう
○ 理由

- かいご せいど がいこくじん
・介護などの制度は外国人にわかりにくい。
- じんせい じょうほう ひつよう
・人生のプランニングに情報が必要。
- ぎょうせい しせつがわ あんない し ひつよう
・行政・施設側も案内などのために知っておく必要がある。

せいかつこうじょうぶかい
生活向上部会⑥

ぎじゅつ かつよう にほんごきょういく さいてきか およ がいこくじんざい
AI技術を活用した日本語教育の最適化及び外国人材の

ちいきていちゃく む ぐたいてき かいけつさく じっし
地域定着に向けた具体的解決策の実施

ないよう
○ 内容

にほんごきょういく ぎじゅつ かつよう
日本語教育にAI技術を活用する。

にほんご がくしゅう ぶんせきけつか けん しさく い
日本語学習の分析結果を県の施策に活かす。

生活向上部会⑥

AI技術を活用した日本語教育の最適化及び外国人材の地域定着に向けた具体的解決策の実施

○ 理由

日本語教育は、外国人材の早期育成と定着支援のために重要。

→ AI技術で効率化できる。

せいかつこうじょうぶかい

生活向上部会⑦(1)

がいこくせきけんみん こうりゅう そくしん
外国籍県民の交流の促進

○ 内容

がいこくせきけんみん にほんじん こうりゅう きかい ふ
外国籍県民と日本人が交流する機会を増やす。

がいこくせきけんみん ちいきかつどう せっきょくてき けいぞくてき さんか
外国籍県民が地域活動へ積極的・継続的に参加しやすい

かんきょう ととの
環境を整える。

れい (例)

- にほん ぶんか たが くに ことば はな
・ 日本文化のイベント、お互いの国の言葉で話す、
- しゅみ い こうりゅう
趣味を活かした交流など
- はばひろ こうりゅうきかい じゅうじつ はか
・ 幅広いテーマで交流機会の充実を図る

りゆう
○ 理由

- ・ かんしん ひと いがい さんかしゃ ふ
・ 関心のある人以外の参加者を増やす。
- ・ たが りかい へんけん おも こ へ
・ お互いに理解したり、偏見(思い込み)を減らす。
- ・ ちいき かつせいか
・ 地域の活性化をすすめる。
- ・ こくさいてき みかた も ひと そだ
・ 国際的な見方を持つ人を育てる。

○ ^{ないよう}内容

^{がいこくせきけんみん}外国籍県民の^{こりつ}孤立・^{ふあん}不安をなくす^{とりくみ}取組をすすめる。

→ ^{じぶん}自分の^{きも}気持ちや^{けいけん}経験を^{きょうゆう}共有する「^{ごじょかい}互助会」の
^{かつどう}活動をすすめて、^{きも}気持ちを^{ささ}支える。

○ 理由^{りゆう}

- ・ 言語^{げんご}や文化^{ぶんか}の違い^{ちが}から地域^{ちいき}で孤立^{こりつ}し、メンタルヘルスに問題^{もんだい}を抱える人^{かか}がいる。

- ・ 安心^{あんしん}して相談^{そうだん}出来る関係^{で き かんけい}を作ることが必要^{つく ひつよう}。

→ 孤独^{こどく}や不安^{ふあん}をなくすことにつながる。

せいかつこうじょうぶかい

生活向上部会一⑧

かながわ^{たぶんかきょうせいぼうさい}多文化共生防災パートナーシップ^{かいぎ}会議^{そうせつ}の創設

○ ^{ないよう}内容

- ・ ^{さいがいじ}災害時の^{じじょかつどう}自助活動(^{じぶん}自分たちで^{さいがい}災害から^{まも}守るための^{うご}動き)を

すすめるために、^{さいがい}災害のないときからネットワークを^{つく}作り、

^{ていきてき}定期的に^{じょうほう}情報を^{きょうゆう}共有したり、^{くんれん}訓練をする。

○ 理由^{りゆう}

- ・ 外国人^{がいこくじん}コミュニティ^{かん}間のネットワークが弱い^{よわ}。
- ・ 情報^{じょうほう}伝達^{でんたつ}、物資^{ぶつし}や人手^{ひとで}を受け入^うれるときの課題^{いかだい}がある。

→ 災害^{さいがい}がないときから関係^{かんけい}を作^{つく}る必要^{ひつよう}がある。

じょうほうぶかい
情報部会①(1)

きそんしりょう かつよう じょうほうりゅうつうけいろ かいぜん
既存資料を活用した情報流通経路の改善

- ^{ないよう}内容
^{がいこく}外国につながる^こ子どもの^{ほごしゃ}保護者に向けて^む進学^{しんがく}情報
をわかりやすく^{つた}伝える^{しく}仕組みを^{つく}作る。

^{れい}
(例)

- ^{こくさいこうりゅうざいだん}かながわ国際交流財団からの^{じょうほうはっしん}情報発信、
- ^{きぼうしゃ}希望者が^う受けられる^{こうこうしんがく}高校進学ガイダンス
- ウェブサイトに^{じょうほう}情報を^{しゅうやく}集約

情報部会一①(1)

既存資料を活用した情報流通経路の改善

○ ^{りゆう}理由

^{がいこくじん} 外国人 ^{ほごしゃ} 保護者は ^{にほん} 日本 の ^{きょういくせいど} 教育制度 をよく ^し 知らない

^{おお} ことが多い。

→ ^{はや} 早い ^{だんかい} 段階 から ^{じょうほう} 情報 を ^し 知り、^{あんしん} 安心して ^こ 子どもの ^{しんろ} 進路 を

^{ささ} 支える ^{ひつよう} 必要がある。

○ 内容

1 基本的な生活ルール、医療、災害に関する情報を
知らせていくことをすすめる。

(例)県の事業で知らせる、国際交流協会などに配る

2 県と国際交流協会のウェブページを相互リンクする。

3 オンライン上の情報を多言語化・アップデートする。

○ ^{りゆう}理由

^{がいこくせきけんみん}外国籍県民が^{あんしん}安心して^{せいかつ}生活していくためには、^{せいかつ}生活に
^{じょうほう}についての^{せいり}情報を^{つた}整理して、^{つづ}伝え続けることが^{ひつよう}必要。